

VMware vRealize Orchestrator 8.1.0 Patch 3 リリース ノート

vRealize Orchestrator Appliance 8.1.0 Patch 3 | 2020 年 10 月 26 日 | 16984307

リリース ノートを頻繁に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

VMware vRealize Orchestrator 8.1.0 Patch 3 は製品のマイナー パッチ リリースで、特定の解決した問題や、vRealize Orchestrator プラットフォーム全体での共通の機能改善が含まれています。「[VMware vRealize Orchestrator 8.1 リリース ノート](#)」の内容は、このバージョンにも適用されます。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [Patch 3 へのアップグレード方法](#)
- [解決した問題](#)

重要

KB 87120 の手順を実行した後にアップグレードが失敗する

KB 87120 に記載されている CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046 log4j の脆弱性に対処するために使用される手順を実行すると、vRealize Automation および vRealize Orchestrator 8.6.2 以前でアップグレードが失敗する場合があります。回避策については、[KB 87794](#) を参照してください。

Patch 3 へのアップグレード方法

公式のアップグレード手順に従って、vRealize Orchestrator Appliance を Patch 3 ビルドにアップグレードできます。「[スタンドアローン vRealize Orchestrator 8.0.1 展開のアップグレード](#)」を参照してください。

解決した問題

- **vRealize Orchestrator 8.1 に移行した後、ローカルの変更エラーが表示される**
vRealize Orchestrator 8.1 に移行した後、次のエラー メッセージが表示されることがあります。'You updated these paths: Workflow/{workflow_id}/workflow.xml while being deleted/renamed in the remote repository.Undo your local changes regarding them and pull.'
- **vRealize Orchestrator 管理者が、新しいスクリプト言語を使用してコンテンツを作成することができない**
ワークフロー デザイナ権限のない vRealize Orchestrator 管理者は、Python、Node.js、または PowerShell を使用してコンテンツを作成できません。
- **無効になったトークン再生拡張機能が、サーバーの再起動後に再度有効になる**

コントロール センターからトークン再生拡張機能を無効にし、vRealize Orchestrator サーバを再起動すると、無効になった拡張機能が再度有効になります。この問題は解決されており、拡張機能は有効にするまで無効のままになります。

- **無効なエンドポイントがあると、再起動時に vCenter Server プラグインの初期化に失敗する**
無効なエンドポイントがあると、再起動時に vCenter Server プラグインの初期化に失敗します。この問題が原因で、vCenter Server プラグインが vRealize Orchestrator インベントリから消える可能性があります。
- **パスワード フィールドが不要な場合、Mail プラグインの通知の送信ワークフローの実行が失敗する**
パスワード フィールドが不要な場合、Mail プラグインの [通知の送信] ワークフローの実行が失敗します。
- **ワークフロー デザイナーが文字列値に関する無効な情報を提供する**
ワークフローに「false」値を持つ複数の文字列が含まれている場合、これらの文字列はブール値「false」ではなく「true」で評価されることがあります。

既知の問題

- **Orchestrator レガシー クライアントで作成されたワークフローが重複すると、値オプションに外部アクションではなく定数が表示されることがある。**
Orchestrator レガシー クライアントで設計され、vRealize Orchestrator クライアントで複製されたワークフローの入力パラメータを編集するときに、値オプションが外部アクションではなく定数として設定されることがあります。
回避策： [入力フォーム] タブに移動し、必要な外部アクションを含めるように入力パラメータのプレゼンテーションを編集します。
- **戻り値タイプの問題のため、入力フォームの外部ソースとしてアクションを選択できない**
vRealize Orchestrator クライアントの [入力フォーム] タブで、デフォルト値または値オプションに対して Any または Array/Any のいずれかの戻り値タイプを持つアクションを選択できません。

回避策：

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.ワークフローを選択し、[入力フォーム] タブに移動します。
- 3.ウィジェットのデフォルト値または値オプションから期待される戻り値タイプを使用してアクションを設定し、変更を保存します。
- 4.デフォルト値または値オプションのアクションを選択してワークフローを保存し、アクションを以前のバージョンに戻すか、戻り値のタイプを Any タイプに戻します。